

# 令和7年度 若狭高等学校 学校関係者評価書

(問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。  
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。  
・スクールポリシーを反映したスクールプランとその評価になっているか。  
・その他、気づいた点はないか。

(意見を聞いた方)  
○令和7年度PTA会長

(意見欄)

○教育課程・学習支援

個別面談や学習ガイダンスを通して、生徒一人ひとりの生活や学習状況に応じた支援が丁寧に行われている点を評価したい。特に、考査前に計画的に学習へ取り組む生徒が増加していることから、教員の継続的な働きかけの成果が表れていると感じる。一方で、家庭学習時間については依然として課題が見られるため、生徒の実態に応じた課題の出し方や学習の進め方について、さらなる工夫が期待される。

○地域住民との連携

PTA活動や保護者懇談会を通して、学校と保護者との間に良好な信頼関係が築かれていることを評価したい。また、学校行事や取組の様子が積極的に発信されており、学校の教育活動が見えやすくなっていると感じる。一方で、PTA総会など一部の行事については参加率に課題があることから、役員以外の保護者や地域住民も参加しやすい方法や機会の工夫を行うことで、より一層開かれた学校づくりにつながることを期待したい。また、探究活動について、もっと保護者が参加できるような形、もしくは保護者が参加できるような場をご検討いただきたい。

○図書整備

ICTの活用が進む中においても、図書室が学びを支える重要な基盤として機能している点を評価したい。一方で、図書や読書案内に関する情報が生徒に十分行き届いていない状況も見受けられることから、情報発信の方法を工夫し、これまで図書室を利用していなかった生徒にも関心が広がるような取組を期待する。

○生徒のキャリアサポート

教員間、保護者との間で情報共有をしながら、面談を軸にして自分のやりたいことは何かを問いかけ、深めていく取り組みは生徒の大きな助けになっている。今後、何をしたいかだけでなく、生徒がどう生きていきたいか、○年後どのような自分でありたいかまで踏み込んで考えていくことができるようサポートをお願いしたい。また目標進路に到達できるよう、受験にも対応できる学力育成に向けて一層取り組んでいただきたい。

○探究的な学習の推進

学校全体として探究的な学習に力を入れており、生徒が自ら課題を設定し、主体的に学びを深めている点は大きな成果であると感じる。特に、教科における探究的な学びを取り入れようとする取組や発表の機会が充実していることは、生徒の思考力や表現力の育成につながっている。一方で、教員間で取組の進み具合に差があるとの課題も示されているため、授業実践の共有や研修を通して、すべての生徒が探究的な学びの成果を実感できる体制が整うことを期待したい。生徒の探究において外部の方との対話が、更に探究を深める一助になると聞いている。保護者にも様々な経験を持つものがおり、社会人として助言を行うことができると思われる。SSH発表会など、探究発表の場について積極的に周知を図り、保護者の参加率を向上させるよう努めていただきたい。

○生徒支援

学校生活全体を通して、思いやりや助け合いを大切にする姿勢が育まれており、多くの生徒が落ち着いた環境で学校生活を送れている点を評価したい。生徒会活動や部活動が活発であることも、学校の良い雰囲気づくりに寄与していると感じる。一方で、少数であっても学びに困難を抱えていたり、学校生活を楽しいと感じられていない生徒もいる。個々の事例に目を向けると、引き続き丁寧な指導が必要な場面も見られることから、日常的な声かけや予防的な指導を重ね、生徒一人ひとりに寄り添った支援を継続していただきたい。

○健康管理・教育相談

日常的な健康管理や教育相談の体制が整えられており、生徒が安心して学校生活を送れる環境が維持されている点を評価したい。特に、面談の機会が多く確保されていることは大きな成果である。一方で、相談内容の多様化・複雑化も進んでいることから、今後は外部専門機関との連携を一層強化するとともに、教職員の負担軽減にも配慮した体制づくりが求められると感じる。

○全体(総括)

学校評価書全体を通して、成果と課題が的確に整理されており、現状を踏まえて次につなげようとする姿勢がよく伝わってきた。今後も、学校・家庭・地域が連携しながら、生徒一人ひとりの成長を支える教育活動が継続されることを期待するとともに、示された課題についても着実な改善が図られることを望みたい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

概ね本校の教育活動に対して前向きな評価をいただいたと理解している。ただし改善点はどの項目についてもあり、今年度各部署の優先事項として解決に取り組んでいきたい。

○学習支援について:社会状況や学習指導要領の変化に合わせ生徒の学び方や、生徒身に付けて資質・能力は毎年変化している。その変化に対応するため、また変わりゆく社会に適応できる力をみにつけるため、今後一層授業改善や、生徒の学習支援に取り組む。生徒の家庭学習については生徒が学びの意義を感じることができるよう個別最適な学びを実現すべく、課題の出し方等に工夫を重ねていく。また図書DXセンターについて、学習リソースとしての役割を一層充実させ、好奇心、探究心に応え、生徒の学びを支えることができる場所へとさらに進化させたい。

○地域住民との連携・探究学習の推進について:特に探究学習の推進の観点から保護者にももっと参画していただけるよう企画段階から意識して取り組む。探究協働会議や発表会など保護者が参画できる機会を設けていく。

○健康相談・教育相談・生徒支援:相談内容の多様化が進んでいることから、校内においてチームを組んで生徒の心理的サポートに努めるとともに、ご意見をいただいたように外部との連携を積極的にすすめていく。また同時に、生徒会活動や部活動、学校行事などについて、各活動がより活性化するように取り組み、生徒が楽しさややりがいを感じ、自分の居場所を見つけることができるようサポートしていく。

○キャリアサポート:令和7年度に放課後ライフデザイン講座をスタートさせたが、これを一層充実させ生徒